【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成23年3月3日(2011.3.3)

【公開番号】特開2009-194438(P2009-194438A)
【公開日】平成21年8月27日(2009.8.27)
【年通号数】公開・登録公報2009-034
【出願番号】特願2008-30417(P2008-30417)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/217　(2011.01)
Ｈ０４Ｎ　5/232　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/225　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/217
Ｈ０４Ｎ　5/232　Ｚ
Ｈ０４Ｎ　5/225　Ｆ

【手続補正書】
【提出日】平成23年1月19日(2011.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
擬似ノイズ信号の生成特性を記憶する記憶手段と、
所定の映像信号に重畳するノイズのノイズ源となり得る信号を参照入力信号とし、前記重畳するノイズに相当する擬似ノイズ信号を、前記記憶手段に記憶された前記参照入力信号に対応する擬似ノイズ信号の生成特性を用いて発生させる擬似ノイズ発生部と、
前記映像信号から前記擬似ノイズ発生部で発生させた擬似ノイズ信号を減算する減算手段とを備えることを特徴とするノイズ低減装置。
【請求項２】
前記記憶手段は複数の前記生成特性を記憶しており、前記擬似ノイズ発生部は前記記憶手段に記憶された前記複数の生成特性の中から選ばれた前記参照入力信号に対応する生成特性を用いて前記擬似ノイズ信号を発生させることを特徴とする請求項１記載のノイズ低減装置。
【請求項３】
前記擬似ノイズ発生部は、前記参照入力信号の立下りと立上りとに応じて、選択される前記擬似ノイズ信号の生成特性を変更することを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項４】
前記擬似ノイズ発生部は、前記映像信号の強度レベルに基づいて、選択される擬似ノイズ信号の生成特性を変更することを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項５】
前記擬似ノイズ発生部に入力される参照入力信号として、前記映像信号に重畳するノイズのノイズ源となり得る複数の信号を論理演算した信号を生成する論理演算手段をさらに備えることを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項６】
前記擬似ノイズ発生部に入力される参照入力信号として、外部信号の送受信に用いられ

る双方向バッファの内部入力バッファの出力を用いることを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項７】
前記擬似ノイズ発生部を複数備えることを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項８】
前記擬似ノイズ発生部に入力される参照入力信号を、前記映像信号に重畳するノイズのノイズ源となり得る信号を含む複数の信号の中から選択する選択手段を備えることを特徴とする請求項２記載のノイズ低減装置。
【請求項９】
前記擬似ノイズ発生部は、前記選択手段によって選択される参照入力信号に応じて、前記記憶手段から選択する擬似ノイズ信号の生成特性を変更することにより、生成する擬似ノイズ信号を更新することを特徴とする請求項８記載のノイズ低減装置。
【請求項１０】
前記選択手段と前記擬似ノイズ発生部とをそれぞれを複数備えることを特徴とする請求項８記載のノイズ低減装置。
【請求項１１】
請求項１から１０のいずれか１項に記載のノイズ低減装置を搭載することを特徴とする撮像装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
上記目的を達成するために、請求項１記載のノイズ低減装置は、擬似ノイズ信号の生成特性を記憶する記憶手段と、所定の映像信号に重畳するノイズのノイズ源となり得る信号を参照入力信号とし、前記重畳するノイズに相当する擬似ノイズ信号を、前記記憶手段に記憶された前記参照入力信号に対応する擬似ノイズ信号の生成特性を用いて発生させる擬似ノイズ発生部と、前記映像信号から前記擬似ノイズ発生部で発生させた擬似ノイズ信号を減算する減算手段とを備えることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】